

『北海道が誇る一次産業のICT化をフォローして  
北海道ブランドの付加価値をつけ北海道から発信するお手伝いをする』

『株式会社北海道総合技術研究所 澤田 知宏(さわだ ともひろ)社長』

<平成22年7月5日賛助会員入会>



【株式会社北海道総合技術研究所会社概要】

- ・設立:昭和59年6月6日
- ・資本金:2千万円
- ・従業員数:68名
- ・代表者: 代表取締役会長 萱場 利通  
代表取締役社長 澤田 知宏
- ・本社所在地:札幌市中央区南1条西10丁目3番地  
南1条道銀ビル3階

【主な事業内容】

- ・業務システムの企画・立案、プログラム開発
- ・ハードウェア・ソフトウェアの選定・導入
- ・システム完成後の保守・運用など総合的管理

会員企業トップインタビュー第10回目の今回は、企業や行政の業務システム開発分野で、絶えずエンドユーザーの視点でシステムの開発をめざし、現代社会において必要不可欠なICT化の提案を通じて社会的責任を果たして、創立から30周年を経過した(株)北海道総合技術研究所の澤田社長にお話を伺いました。

Q. 沿革、設立の経緯は。当時の(社)北海道開発問題調査会との関係は。

A. 当社現会長の萱場が異業種交流の目的で活動するSAS北海道※1(昭和52年設立)に参加していた事がそもそもの始まりです。

SASとは、“新しい地域開発”をテーマにした勉強会や実験の場でした。昭和58年、(社)北海道開発問題調査会(通称:HIT)が発足して、故志摩良一様が理事長(元北海道議会事務局長)を務められ、広く会員を集い北海道開発に関する政策課題を探求するのが目的で、“情報”と“物流”などの基幹を成すテーマについて勉強会が開催されていたようです。

その様な中で、萱場は現職(当時現HBAに勤務)の経験を活かし、第三セクターである政策集団(HIT)とは別に、政策を具体化する技術集団(民間企業グループ)が必要であるとの結論に至り、バイオマスやソフトウェア技術を中心とした新会社として、昭和59年6月に(株)北海道総合技術研究所を設立しました。“総合技術”とは“IT”と“バイオマス”を指しています。新しい北海道開発に必要なとする技術は“情報”と“バイオマス”と想定したのです。

初代社長には、当時の北海道開発問題調査会志摩良一理事長、事務所はHITと横並びで南側に面した空きオフィス50坪。窓からはポプラに囲まれた赤レンガ、道庁新館三階には知事室が見えたそうで、この風景には決して負けない会社を作ろうと思ったそうです。

※1SAS北海道(System Analyst Society : システム・アナリスト・ソサエティ)

Q. 経営理念、マスコットキャラクターの由来。

A. 当社は、北海道地域に根ざしたIT企業として「地域産業振興」や「企業の近代化」など地場パワーの増強を念頭に、より幅広い分野へのソフトウェア技術の提供を目指しています。

時代が求めるニーズに的確に応えるべく、当社の持ち得る技術すべてに光を当てながら、日々新しい技術へと転換することこそ、当社の社会的使命と考えております。

マスコットキャラクターのフクロウは、社員よりデザイン公募を行い、創立10周年から採用しています。フクロウは「森の知恵者」と呼ばれ、ヨーロッパでは「英知の象徴」とされ、「コルシャ」の愛称で可愛がられています。



マスコットキャラクター「コルシャ」

**Q. システム開発における強み（セールスポイント）は。**

**A.** 実績と技術力が強みだと思っています。ユーザーの業務をしっかりと理解して、ユーザーサイドからの視点でシステム開発する事を目指しています。決して技術者のエゴではいけないと思うのです。

また、介護・福祉関連の行政の窓口で使用されるシステム開発を政令指定都市から直接受注しています。

この様に得意とする業務に特化してシステム開発を行う事が良いシステム作りのポイントになると信じています。

**Q. 人材育成の方針、内容。**

**A.** 社員一人ひとりが自立できる力を持つ事を人材育成の方針としています。技術領域は勿論ですが、コミュニケーション力、マネジメント力も合わせて強化する必要があります。

また、客観的に外から会社を見ることも必要なため、自己啓発の一環として異業種間交流会やイベント、セミナー、講演会等への参加も推奨しており、報告書は社内グループウェアを利用して全社員で情報を共有しています。

また、昨年度から始めた新考課制度による全社員へのヒアリング(面談)とフォローアップを行い、社員と創業理念を共有化(心に浸透させる)して高い技術力とプロとして通用する人材を育成し、新しいフロンティア精神を持たせるため社内でベクトルを合わせています。さらに、社員の自主的な活動も支援しています。

幸せと感じる事は人それぞれ違いますが、人の役に立つ喜びを幸せと感じてもらえる様に伝えて行く事が大切と考えます。

**Q. 社風、個性、社員気質。**

**A.** 社風は、エンドユーザー思考であり、ルールに縛られず臨機応変に対応できるので合理的に物事を決めて進める事ができます。社員気質は、真面目にユーザーの事を考えて真摯に取り組む姿勢を持っているというものでそれが強みだと思っています。

**Q. 当本部の賛助会員となった経緯は。**

**A.** 加入の経緯は、弊社墨谷和則監査役(元北海道電力社員)からの紹介がきっかけで、墨谷監査役は弊社設立時のSASメンバーの一人であり、そのご縁から加入に至りました。

**Q. 社長のご趣味は。**

**A.** 趣味は、音楽(作詞・作曲)で、中学の頃から始めて、大学時代にはヤマハのポピュラーソングコンテストの関東甲信越大会に出場したという経験があり、今でも時々作曲をしています。

ゴルフは2009年から始めて6年経ちましたが、100を切れてません。

お酒は元々ほとんど飲めなくて、今でもすぐに顔が赤くなりますが、仕事で飲む機会が増えた事から、そこそこ飲める様になって来ました。バーボンとかウイスキーが好みです。

「ばんけい峠のワイナリー」で作られたワインを飲みながら二か月に1度、異業種交流会に参加しています。他の会合(常時7~8)にも参加しています。

**Q. 将来展望、社業を通じての北海道に対する想いや夢。**

**A.** 将来展望として、ICT化は企業にとって必要不可欠ですが、新規のシステム開発は少なくなると思われ、道内企業でみてもかなり低くなると想定しています。従って、その事を肝に銘じて新しい分野に挑戦する事が必要です。

1. 私たちは、IT技術で地域の未来を創造します。
2. 私たちは、お客様の発展に貢献します。
3. 私たちは、夢を育み、勇気を持って新たな分野にチャレンジします。

これが経営理念ですので、夢は、北海道が誇る一次産業のICT化をフォローして、北海道ブランドの付加価値をつけ北海道から発信するお手伝いをする事。そして、会社を未来永劫継続させ、北海道の新しいビジョンづくりに貢献できる企業になる事、すなわちユーザーから信頼され評価を得る事です。北海道だけではなく道外からの仕事も積極的に取り組み、北海道を開発拠点として位置付け、これからの北海道の新規展開に投資できる体制にしたい。当社を、北海道内で選ばれる企業にする事が、私の使命であり夢でもあります。

社長就任に際し会長から頂いた言葉で、「至誠惻怛(しせいそくだつ)」。この言葉を心に留めて務めてまいります。

本日はお忙しいところ大変ありがとうございます。